

2020 年度冬期講習予定

授業日程一覧表 冬期講習の期間は **12/22(火)~1/7 (木)** です。 2020.10.14 鈴木国語研究所

	22 火	23 水	24 木	25 金	26 土	27 日	28 月	29 火	30 水	31 木	1 金	2 土	3 日	4 月	5 火	6 水	7 木	
am8:30-11:30		中学生 国語			6年生国語前半								6年生国語後半					
pm2:00-5:00	大学受験 古文				4年生招待授業						漢字 マラソン		5年生国語					
pm6:00-9:00	6年 時事問題 特別授業				大学受験 現代文小論文						pm12:30-4:30		大学受験 現代文 小論文		中学生 国語			

*宿題は一切ありません。その場ですべてをマスターする集中学習法！ ただし、復習を勧めます。

*「わかった」と思うだけではだめだ。確実に身につけることが必要だ。授業でマスターしたものは復習しやすい。

そのチャンスを生かして、復習で追いつき追いぬく。復習で勝つ！それを積み重ねる！

1 授業の取り方

各授業とも1回(日)ごとに完結する授業をするため、1回(日)ずつバラバラに組み合わせてとることができます。

1回以上、何回でも(例 4回・6回・13回)受講できます。例=時事問題 12/22~24、6年国語 12/26,28,30・1/3/5/7・漢字マラソン午前(計10回)

2 授業料 全授業に共通です。

① 5回(日)まで=6000円×受講回数

② 6回(日)以上 3万円+4000円×(受講回数-5回)

③ 兄弟姉妹の回数は通算します。(例 姉6回+弟5回=11回分の授業料)

3 お申し込み方法

*口頭によるお申し込みはお受けしません。

*申し込みフォームあるいはメールによる電子的な方法に限らせていただきます。

① ホームページ(<http://www.s-kokugo.com>)の申し込みフォーム(外部生用・内部生用)からお申し込みになることができます。

② 内部生の方は、通常のパソコンメール・携帯メールでお申し込みになることができます。

③ **10月19日(月)正午より**お申し込みを受け付けます。内部生・外部生を問わず先着順に受け付け、定員になり次第締め切ります。

⑤ ある授業を申し込んだ後に、回数を増やす、他の授業を申し込む、などの追加的申し込みができます。

12月18日(金曜日)午後3時(授業料振り込み期限)までは**キャンセル可能**です。それ以降の**キャンセル・返金はお受けできません**。

12月18日(金)午後3時**以前**のキャンセルにつき返金が必要な場合には手数料として500円を引かせていただきます。

⑥ 講習内での授業日の振替は席がある限り可能です。教室受講とZoom参加の変更も原則として可能です。

4 振り込み方法

お振込先 申し込まれた方に個別にお伝えします。

お振込み期限 **12月18日(金曜日)午後3時**

4回以上おとりになる場合、この期限内のお振込みは500円の割引を致します。授業料より500円をお引きの上、お振込み下さい。お引きにならない場合には放棄したものとみなさせていただきます。

お振込み手数料はご負担願います。

5 授業内容 1日(1回)ごとに授業内容は異なります。

科目	日程・時間帯	内容
6年国語	前半 12/26～30 (5回) 後半 1/3～7 (5回) am8:30-11:30 授業内容はすべて異なります。	①説明的文章と文学的文章をバランスよく配置。 ②論説文についてはもちろん、物語文の登場人物の気持ちや主題の読み取りなども、分析問題により精密読解をし、さらに、その定着のためのトレーニングをする。 ③精密選択のコツをトレーニングする。 ④入試レベルの漢字
6年生 漢字マラソン 2021	1/1 元旦 pm12:30～4:30(4h) 教室参加を原則とします。 18名限定	正月から地獄！受ければ天国！ 漢字総復習 最後のチャンス 6秒で1問→10分で100問→1時間で600問 →3時間22分6秒で2021問を目指せ！ Zoom参加を拒否するわけではありませんが、Zoom参加者は、自力で自分の集中力をマラソン状態に持っていく必要があります。
時事問題 特別授業 6年生対象	12/22～25 (4回) pm6:00～9:00 授業内容はすべて異なります。 教室参加を原則とします。 16名限定	高度だけれど、ものすごくわかりやすい！ 22日 選挙制度を分かりやすく解説・定着させる。 23日 選挙の原則・1票の格差の問題を分かりやすく解説・定着させる。 24日 国の予算と財政赤字、消費税などの税金、コロナとの関係。 25日 地球温暖化・プラスチックごみによる海洋汚染 時間が余れば、適宜他の問題(食料自給率・領土問題・世界の情勢など)もやります。 この点の予測がつかないため、Zoom参加者の面倒までは見切れない恐れがあります。
5年国語 全5回	1/3～7 (5回) pm2:00～5:00 授業内容はすべて異なります。	①説明的文章と文学的文章をバランスよく配置。 記述方式の分析問題により読解。選択問題練習もやります。 ②簡単な説明文を読解分析→要約 ③5年生レベル漢字
4年生 招待授業 無料	12/26～30 (5回) pm2:00～5:00	①1人3回まで教室参加できます。3回以上はZoom参加してください。 ②Zoom参加は5回すべて可能です。 ③教室参加は1日8名限定 生徒1人に対して保護者1人の見学が可能(8名限定・途中交代可能)です。 ④Zoom参加のみでなく、少なくとも1回は教室参加されることをお勧めします。 ⑤漢字の勉強の仕方・説明文・物語文の読解記述の基礎、要約文の書き方の基礎など、根本のところを分かりやすく教えます。
中学国語 全5回	前半 12/23・24 (2回) am8:30-11:30 後半 1/5～7 (3回) pm6:00-9:00 授業内容はすべて異なります。	①論説的文章と文学的文章をバランスよく配置。記述方式の分析問題により読解。選択問題練習もやります。 ②説明文を読解分析→要約 ③中学生レベル漢字

<p>大学受験 現代文小論</p> <p>前半 4回 後半 2回 全 6回</p>	<p>前半 12/27～30 (4回) pm6:00-9:00</p> <p>後半 1/3・4 (2回) pm6:00-9:00</p> <p>授業内容はすべて異なります。</p>	<p>①現代的テーマの論説文を、徹底的に分析・理解する。その上で小論文(要約・自分の意見)を作成する。この論理的な分析と総合のトレーニングにより、現代世界に対する認識を深めるとともに、論理力を鍛え、入試対応力をつける。</p> <p>②センターなどの選択問題等も、選択のコツをていねいに教え、入試対応力をつける。</p> <p>③大学入試レベル漢字。</p>
<p>大学受験 古文</p> <p>全 45回</p>	<p>12/22～25 (4回) pm2:00-5:00</p>	<p>センターなどの入試問題の古文を用い、徹底的な文法分解による読解→その結果を即マスター→テストにより即確認・定着化、という三段階の方法で、精密な読解技術を能率的に習得する方法をトレーニングし、入試対応力をつける。</p>

以下は、スペースが余りましたので、よしなしごとを書きつけてみました。

- * 特に小学生の授業に関して、「どの日に物語文をやるのですか？」というような質問がなされます。しかし、この種の質問はなさるべきではありません。物語文を数回やれば物語文が強くなり、説明文を数回やれば説明文が強くなるというわけではありません。読解力は、多様な文章を、できる限り多く精読して獲得されるところの総合的な力だからです。
- * 「語彙が乏しいので文章が読めません」という嘆きをよく聞きます。語彙とは、基本的には文脈推理力であり、文脈推理力によって語句の意味を確定していく思考力の問題です。したがって、中高生が「apple=りんご」と覚えるような単純な知識の問題ではありません。文脈推理力は、文章の精密な論理的読解のトレーニングによって培われるものです。辞書を引くとしても、その言葉がどういう意味でその文章の中で使われているかをさらに確定していかなければならないのです。この作業は結果として当然語彙を増やします。その語彙はその人に深く根差すものとなります。ちなみに、子どもが語彙が乏しいのは極めて当たり前のことで、その状態からどう語彙をつけていくかが塾の力量というものであるはずなのに、「語彙が乏しいから読めないのです」と子供を評価するのはおかしくはありませんか。また、語彙があれば自動的に文章が読めるのでしょうか？ では、一応語彙があるといえる AI が、高度な文章を翻訳すると意味不明の部分が多々出てくるのはなぜでしょうか？ 「語彙がないから読めない」という教師は、語彙に対する認識が乏しいのではないですか？つまり、その人の「語彙」が乏しいということになりませんか？
- * 特に大学受験に関して、「小論文の書き方を教えてくださいませんか？」という質問がなされます。これに対しては、小論文なんて簡単だ、「結論←その理由①……、②……、③……、」と書けばよい、という人がいます。しかし、このように書こうとしても「理由①……、②……、③……、」の部分に何を書けばよいのかわからない人が多いはずで。小論文を書くということは、形式の問題ではなく、内容の問題であるということです。その内容を考えられるようにするには、多様な文章の精読を積み重ねることを通して、帰納的に、知識、物の見方、思考方法を習得しておくことが必要です。故に、小論文を書くためには、多様な文章のそれぞれについて、まず精密な論理的読解とその正確な要約をして、文章の内容を自分のものにしてしまうくらいに学ぶことが必要です。次に筆者の論と切り結ぶ形で自分の考えをまとめる練習することが必要です。(さらに言えば、このような作業を楽しみと思えることも必要です。) 安易な「楽のできるうまい方法(マニュアル)」を求める人は、そもそも大学で勉強することに向かない人です。